

夢と希望に満ちた新しい春。

私たちは、輝く未来へ飛翔する若い力を育てていきます。

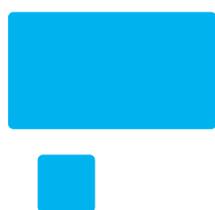
夢に翼を

都市大グループ



「夢に翼を」は、東京都市大学グループの学園歌の名称です。五島育英会ウェブサイト <http://goto-ikuei.ac.jp> から是非お聴きください。

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。——都市大グループ



東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス [工学部/知識工学部]

横浜キャンパス [環境学部/メディア情報学部]

等々力キャンパス [都市生活学部/人間科学部]

詳しくはホームページへ

都市大グループ

検索

附属中学校・高等学校 / 等々力中学校・高等学校 / 塩尻高等学校 / 附属小学校 / 二子幼稚園

学校法人 五島育英会

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル8F Tel:03-3464-6911(代) <http://toshidai-group.jp/>

都市大グループ公式 Facebook ページ ▶ <http://www.facebook.com/TCUgroup>

進化し続ける東京都市大学

幼稚園から大学、大学院まで。“未来を担う人材”を育てる都市大グループ

学校法人五島育英会が設置する武蔵工業大学は、2009年4月に『東京都市大学』（略称：都市大）と改称、同時に、付属の幼稚園から小・中・高等学校を含めた『東京都市大学グループ』が形成されました。あらゆる学齢において洗練された教育を推進する都市大グループの絶え間ない進化を見つめながら、都市大&都市大グループが目指す将来像を展望してみましょう。

学校間連携を強めながら あらゆる学齢で優れた教育・研究を推進する

工学教育を中心に、未来を担う専門力に秀でた人材を育成してきた武蔵工業大学は、創立80年目の2009（平成21）年4月1日、その名を『東京都市大学』（都市大）へと改称。世田谷キャンパスの工学部と知識工学部、横浜キャンパスの環境情報学部（2013年に環境学部とメディア情報学部の2学部へ改組）に加え、等々力キャンパスに都市生活学部と人間科学部を開設し、都市型総合大学として新たなスタートを切りました。それと同時に、付属の高校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園も、『東京都市大学』を冠に改称し、『東京都市大学グループ』（都市大グループ）が誕生しました。

それから6年目を迎え、各学校では、「健全な精神と豊かな教養を培い、未来を見つめた人材を育成する」という都市大グループの教育理念のもと、各校独自の伝統と教育実績を活かしながら、グループのスケールメリットを最大限に発揮すべく、都市大を中核とした各学校間相互の連携強化に努めています。

五島慶太先生の遺訓を体現し 世界で活躍する人材を育てる都市大グループ

都市大グループを設置する学校法人五島育英会の初代理事長である五島慶太先生は、本法人を含め、東急電鉄をはじめとする公共交通から、不動産、生活サービス、ホテル・リゾート、ビジネスサポートなど幅広い分野で事業を展開する東急グループの創設者です。五島先生は、慶應義塾大学への土地無償提供をはじめ、東京学芸大学、東京都立大学（現 首都大学東京）などの東急沿線への学校誘致など、他法人の教育事業に対しても積極的に尽力しており、事業家として傑出した才を示したばかりでなく、教育者としても大きな足跡を残しています。五島先生は、本法人の創設当初より、日本を、そして世界を支える有為な人材を育成するには、幼稚園から大学までを包含する総合学園化が不可欠であると提唱していました。2009年に実現した都市大を中心とするグループ化は、1959年に惜しまれながら世を去った五島先生の遺訓が、半世紀を経て見事に結実したものといえるでしょう。こうした五島先生の考えは、都市大グループの教育理念や、「国際的な視野と情報活用能力を身につけ、健全な精神と豊かな教養をもって、国際社会で活躍する有為な人材を育成する」という教育目標へと着実に受け継がれて、都市大グループの原動力となっています。

グループ誕生から5年目を迎えた2013年、都市大は、従来の環境情報学部を、環境学部とメディア情報学部へ再編、これによって6学部18学科を擁することになりました。また、都市大グループの高校以下の学校においても、高大連携や中高一貫などの取り組みをさらに積極的に展開しているところです。

五島先生の遺志を受け継ぎながら、これからも都市大グループは、教育研究、教育環境の向上に取り組み、休むことなく、進化、成長し続けます。



CITY
UNIV.

「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。—都市大グループ

東京都市大学

世田谷キャンパス 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104(代)
横浜キャンパス 〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西3-3-1 TEL.045-910-0104(代)
等々力キャンパス 〒158-8586 東京都世田谷区等々力8-9-18 TEL.03-5760-0104(代)

東京都市大学 附属中学校・高等学校

〒157-8560 東京都世田谷区成城1-13-1 TEL.03-3415-0104(代)

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-10-1 TEL.03-5962-0104(代)

東京都市大学 塩尻高等学校

〒399-0703 長野県塩尻市広丘高出2081 TEL.0263-88-0104(代)

東京都市大学 附属小学校

〒157-0066 東京都世田谷区成城1-12-1 TEL.03-3417-0104(代)

東京都市大学 二子幼稚園

〒158-0094 東京都世田谷区玉川2-17-10 TEL.03-3708-0104(代)

シンボルマーク：「都市」の「T」を図案化。また、持続可能な明るい未来を見出す「窓」であり、そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」も意味する。色調（アイデンティティカラー「TCUブルー」）は、知性と明るい未来を象徴する。

都市大グループの祖 五島慶太先生

五島慶太先生 生誕130年記念誌を発行

1882年4月18日、長野県小県郡の農家の二男として生まれた五島慶太先生は、経済的な事情から上級学校への進学を諦め、いったん小学校の代用教員として働いてから、東京帝国大学（現 東京大学）を卒業。有能な官僚として鉄道の発展に力を尽くした後、東急グループの創設者となりました。一方、国家の繁栄には何より人材育成が大切と、1955年に学校法人五島育英会を設立し、初代理事長に就任。現在の東京都市大学グループの礎を築きました。2012年4月18日は、五島先生の生誕130年。これを記念して、五島先生の教育事業に関する実績を網羅した「五島慶太翁生誕130年記念誌『熱誠』」を刊行しました。教育と研究に対する熱い思いを宿したその遺伝子は、今も都市大とグループ各校に脈々と受け継がれています。



創設者 五島慶太先生



昨年、五島慶太翁生誕130年を記念し「熱誠」を刊行。グループ校の図書館（図書室）で閲覧可能。



たゆまぬ挑戦を続ける東京都市大学 創立100周年に向けたビジョンを掲げ

1929年の創立以来、80余年にわたって、日本経済の屋台骨を支える人材を輩出してきた都市大。創立90周年、100周年を見据え、「国際都市東京で存在感を示す有数の私大」をめざし、行動計画に着手しています。世田谷、横浜、等々力の美しい街に立つ3キャンパスが今、さらに美しく変わろうとしています。

創立90周年、100周年に向けた『東京都市大学 アクションプラン2030』を推進中

“工学教育の理想”を求める学生が中心となり1929年に創設された武蔵工業大学と、70年もの優れた女性教育の伝統を持つ東横学園女子短期大学とが統合し、2009年、誕生した都市大。現在では、工学部、知識工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部、人間科学部の6学部を擁し、ものづくりの根幹である工学から、21世紀の最重要課題とされる環境、情報、都市問題、さらには幼児教育をも網羅する都市型総合大学として、その存在感を一層強めています。都市大では、今、創立90周年、100周年を見据えた中長期計画、『東京都市大学 アクションプラン2030』を策定し、その実現に向けた取り組みをスタートしています。このプランは、「80年を超える専門実践教育の伝統に加えて、『都市』をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の私大」となることをビジョンに掲げ、「教育の質保証」、「キャンパス教育環境向上」、「ブランド力向上」、「大学運営向上」の4つのプロジェクトを強力に推進するものです。例えば「ブランド力向上」プロジェクトでは「学生の海外留学支援」や「国内外企業へのインターンシップの促進」などの具体策を実施しながら、世界大学ランキング上位を目指すなど、国際的な知名度アップも図ります。現状に満足することなく、常に前進し続ける都市大。その進化と改革の勢いは、決して衰えることはありません。



1929年電気・土木・建築の3工学科を備えて設立。写真は創立当時の校舎

アクションプラン2030 ▶ <http://tcu-actionplan.jp/>

文化の薫り高い3キャンパス 世田谷には『新1号館』が完成

都市大では、全ての学部・学科生が4年間をワンキャンパスで過ごし、集中しながらスキルを高めます。

閑静な港北ニュータウンの一角に立つ『横浜キャンパス』は、環境学部とメディア情報学部の拠点。日本の大学として初めて環境ISO14001を取得したエコキャンパスで、先進的な情報ネットワークを備えるサイバーキャンパスとしても知られています。都市生活学部と人間科学部が置かれる『等々力キャンパス』は、自然の滋味豊かな等々力溪谷にほど近く、静かで心落ち着く絶好の学習環境です。工学部と知識工学部を擁する『世田谷キャンパス』の敷地面積は、東京23区の私立理工系キャンパスの中では最大規模で、現在、大がかりにニューラル事業を展開中。2013年12月には、キャンパスの新たなランドマークとして、学生支援センターやラウンジ、研究室、教



学生支援機能を集約した利便性の高い「新1号館」。環境に配慮した先進的なサステイナブル設計にも注目です。

東京都市大学 学部学科構成

世田谷キャンパス	
工学部	機械工学科
	機械システム工学科
	原子力安全工学科
	医用工学科
	電気電子工学科
	エネルギー化学科
	建築学科
知識工学部	都市工学科
	情報科学科
	情報通信工学科
	経営システム工学科
横浜キャンパス	自然科学科
	環境創生学科
	環境マネジメント学科
環境学部	社会メディア学科
	情報システム学科
メディア情報学部	
等々力キャンパス	
都市生活学部	都市生活学科
人間科学部	児童学科



世田谷キャンパス(世田谷区玉堤)



横浜キャンパス(都筑区中川)



等々力キャンパス(世田谷区等々力)

室などを擁する環境配慮型の複合施設『新1号館』が竣工しました。いずれのキャンパスも、東京都心部や横浜からの交通は至便。3つのキャンパスを専用シャトルバスで結ぶことで、学部・学科の壁を超えた研究・教育・交流が図られています。

最高ランクのS評価を得た就職支援事業など 「就職に強い」都市大のキャリアサポート

前身の武蔵工業大学時代から「就職に強い」との評価を揺るぎないものとしている都市大。文科省の2009年度『大学教育・学生支援推進事業』に採択された都市大の独創的な教育プログラム、『少数者専門教育と「攻めのインターンシップ」による就職支援』は、最高評価のS評価を獲得しています。2013年度(2014年3月卒業生)の内定率も、全学部平均で95.4%(以上、2014年3月26日現在、都市大調べ)と、全国平均の82.9%(2月1日現在、文部科学省・厚生労働省発表)に比べて非常に高い実績をあげています。その理由は、卒業生の多くが日本経済の中核を支える企業や、自治体などの第一線で活躍し、その力量を広く認められているため。都市大では、これら卒業生の協力を得て、600社を超える優良企業が集まる学内企業説明会を開催。さらに東急グループの一員であるメリットを生かしたグループ企業での単位認定型インターンシップや、海外でのインターンシップなど、全学一丸となった独自の取り組みを推進しています。また各キャンパスで就職サポートの中心的役割を担うキャリア支援センターでは、専門のキャリアカウンセラーの人員を増強しながら、各学部・学科の特徴を活かしたキャリア支援を早期から実施。今後も都市大では、学生一人ひとりに合わせたきめ細かい支援策を展開しながら、将来の国際社会を担うグローバル人材を世に送り出していきたいと思います。

北澤宏一 新学長に聞く

夢に翼を Think Globally. Act Locally.

2013年9月1日、東京都市大学の9代目学長に就任した北澤宏一新学長は、高温超伝導研究の第一人者として世界的に著名な存在で、2007年からは科学技術振興機構の理事長として日本の科学技術の発展に尽力。最近では福島原発事故の独立検証委員会(民間事故調)委員長として、新たな法律に基づく原子力規制委員会の創設に貢献しています。北澤学長は、「都市大グループの学園歌は『夢に翼を』。その題名の通り、都市大生のみなさん一人ひとりが夢を持ってそれを育み、翼をつけて実社会に羽ばたいてほしい」と訴えます。学生が夢を持つために“実践”が何より必要と考える北澤学長は、「幸い都市大は、日本経済を支える工学から、21世

紀の最重要課題である環境、情報、都市問題、次世代の育成に関わる幼児教育など幅広い領域を有しています。またあらゆる学齢をカバーする都市大グループの中核であり、かつ東急グループの一翼を担うなど、実践の方途を見出すためのさまざまな場が備えられています」と強調します。ホームページの学長挨拶には、「Think Globally. Act Locally.」(地球規模でものごとを考え、足下を見据えて行動せよ)というモットーを掲げ、「一隅を照らす」ことのできる人材育成に力を注ぎたい、と語る北澤学長。社会の一隅を照らす灯火が集まって、やがて世界全体を輝かせること。それが北澤学長の“夢”なのです。



知識と技術と行動力で夢を現実にも！ 実践力と専門性を生かした都市大生の活動

少人数制の実践的な教育やきめ細かいサポート、恵まれた学習環境の中、都市大の学生たちは主体的に行動し、社会にその成果を還元しています。最近の学生たちの活躍にスポットを当て、その幾つかをご紹介します。

未来を切り拓く理工系女子学生

都市大で学ぶ理工系女子学生が学内外で存在感を発揮しています。2013年11月20日には、大学院・学部生11名が、中部電力浜岡原子力発電所での電力会社技術系女性社員とのグループディスカッションに参加。第84回都市大世田谷祭(大学祭)では、パネル展示「大好き!都市大リケジョのホンネ」と、女子生徒向けの相談コーナー「リケジョ応援コーナー」を開設し、理工系分野の進学を目指す女子高校生を中心に情報提供を行いました。そんな彼女たちの活躍は都市大のホームページでも垣間見ることができます。なお、都市大は学内に男女共同参画室を設置して、理工系女子学生の自主的な活動を支援しています。



ホームページでも都市大で学ぶ理工系女子のキャンパスライフを特集。

学生が講師となって 福島の小学校で放射線教室を開講

2013年9月3日、都市大原子力研究所の岡田往子准教授と、メディア情報学部の小池星多准教授、小池研究室の3年生10名が、福島県福島市の飯坂温泉にある市立湯野小学校を訪問し、小学6年生児童約35名に、インフォグラフィックス(情報やデータを視覚的に表現したもの)を用いた放射線教育を行いました。これまで福島を中心に放射線教育に取り組んできた岡田准教授は、今回、小学生が放射線を理解するために必要な10のテーマを選んで小池研究室に情報提供。研究室所属の学生がその情報に基づいてインフォグラフィックスを作成し、放射線の性質や人体への影響などについて説明しました。



都市大の学生がインフォグラフィックスで分かりやすく説明。

陸前高田市の仮設商店街や周辺地域で 照明の社会実験を実施

工学部建築学科の小林茂雄研究室は、2013年9月11日～10月2日まで、東日本大震災の被災地である岩手県の陸前高田未来商店街や竹駒町地区周辺で、街灯の設置による安心感や安全性を検証する照明社会実験を行いました。仮設地域となるこれらの場所では、これまで街灯がなく、夜間は真っ暗になってしまうことから、安全性に問題がありました。小林研究室では学生が中心となって、照明を設置後、住民や商店主にアンケートを実施。温かな人の気配を作り、安心感と防犯性を高めるとともに、夜間の津波発生時の避難経路照射による安全性を検証。なお、実験終了後には常設照明の設置に向けて市に提案を行いました。



温かな灯りで被災者の心も照らしたい。

学生有志が企画・運営をサポート毎夏恒例の『科学体験教室』

2002年以来、毎夏開催される『大学で楽しもう!! 小学生・中学生のための科学体験教室』が、2013年度は8月8日に行われ、世田谷キャンパスは多数の親子連れで賑わいました。今回は「体を使ってレゴロボットを動かそう!」、「ブロック模型でスマートハウスを作ろう」など、都市大の教育・研究内容を生かした49テーマを出展。企画・運営には学生たちが主体的に関わっており、科学の楽しさを、たくさんのお子どもたちに伝えています。



科学の不思議な面白さを次代に伝えます。

海外&東急グループのインターンシップ発表会を開催

『海外インターンシップ』と『東急グループインターンシップ』に参加した学生による成果発表会が、11月20日、世田谷キャンパスで受入企業の方々と迎えて行われました。参加学生を代表して、海外5社、東急グループ企業7社でインターンシップを行った学生が自身の体験を、プレゼン技術を駆使して分かりやすく紹介。参加学生は、就業に対する意識が高まり、企業からも注目されるとのこと。今後もインターンシップのますますの活用が期待されます。



発表後は活発な質疑応答が行われました。

世界各国でフィールドワーク研修を実施

グローバルに活躍できる人材を育成するため、国内外の大学や研究機関と共同しながら、世界各地で数多くのフィールドワークを行っています。その一つ、『スコットランド地質見学』では、雄大な氷河地形を前に、地質学の歴史や、数10億年にわたる大陸移動と地球の変動を実地で学びます。異文化とふれ合い、専門知識を磨き、同時に語学力も鍛える海外フィールドワーク。そこには都市大の優れた教育が体现されています。



専門知識と語学力を同時に磨きます。

学生を中心に環境への取り組みを活発化

日本の大学で初の環境ISO14001を取得した都市大横浜キャンパスでは、『環境ISOフォーラム』(環境活動の報告会)をはじめ、環境保全に向けたさまざまな取り組みを実施しています。環境学部では、この度『高校生環境活動グループ実践賞』を創設し、第1回の最優秀賞に、水環境における外来種問題などを研究する向上高等学校生物部を選出。東京ビッグサイトで開かれる国内最大規模の環境展示会『エコプロダクツ』にも毎年出展しています。



「高校生環境活動グループ実践賞」授賞式後の記念撮影。

中高生のものでづくりを支援 エコ1チャレンジカップ開催

1998年より、主に中学生・高校生を対象として開催していた「バッテリーカーコンテスト」は、2012年度に会場を東急自動車学校に移し、装い新たに「都市大エコ1チャレンジカップ」として開催。「創意工夫に基づいたものでづくり」の場を提供しながら、バッテリーの電気エネルギーの効率的活用や自動車の基本性能を競い、環境とエネルギー問題への認識を高めて、創造性に富む人材の育成を目的としています。2013年度は8月24日に行われ、中・高生の19団体が走行タイムを競いました。



車両のデザイン性も含めた総合評価で順位が決まります。

大学とグループ校との連携

都市大グループの中核として連携推進

都市大と都市大二子幼稚園では、幼大連携を推進中。人間科学部児童学科の学生がサポーターとなって、幼稚園の夕涼み会や芋掘り、運動会などさまざまな行事のお手伝いをしています。都市大付属小学校に対しては、都市大新聞会の学生が学校新聞作りのノウハウを伝授。付属の各中学校・高等学校と大学との高大連携も活発で、都市大塩尻高等学校では、テレビでお馴染みの涌井史郎環境学部教授らが講師となって、環境問題などに関する市民公開講座を開講。都市大等々力中学校・高等学校でも、高等学校1年生を対象に、都市大の先生による「最先端科学講座」を催しました。他に

も、都市大付属高等学校と都市大等々力高等学校との2013年度硬式野球部対抗戦で都市大の野球部員が審判を務めたり、都市大等々力高等学校と大学の弓道部が交流試合を行うなど、さまざまな場面で連携強化が図られています。また、都市大原子力研究所では、グループ各校や総合グラウンドなどにおいて放射線量の測定を実施。2014年3月の測定では、すべての学校において自然放射線量の変動範囲内でした。付属3高校から都市大へ進学する「付属進学制度」もスタートしており、今後もグループの中核として、都市大の果たす役割に注目が集まっています。

人間科学部児童学科の学生がサポート役として二子幼稚園のジャガイモ掘りに参加。グループの強みを生かして保育の現場を体験。



硬式野球部対抗戦が行われ、都市大付属高が都市大等々力高に勝利し、理事長杯を手に入れました。

工学から、情報、環境、まちづくり、幼児教育まで 都市大の先進的な研究と教育

サステイナブルな
未来を築く教授陣

都市大では、工学部、知識工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部、人間科学部の6学部18学科において、それぞれ優れた研究活動と教育活動に邁進しています。ここでは、社会が注目する研究内容について、数ある中から各学部1研究室をピックアップして紹介いたします。

地盤の調査と液状化対策を通して 地震が多い日本の礎を守る

東日本大震災では、千葉県や茨城県などのさまざまな地域で、地震による液状化により、家屋や建物、インフラ設備が大きな被害を受けました。末政直晃教授は、地震の多い日本において、構造物の安定と信頼性を高めるべく、地盤の調査や、液状化対策などを推進しています。その主要な研究は、地盤調査の新たな手法を創造すること。末政先生は、従来方法を改良して、より一層測定精度が高く、しかも低コストなスクリーンドライバーサウンディング試験(SDS)を開発しました。さらに末政先生は、調査によって液状化の危険が判明した地盤を改良することにも力を注ぎ、直径数マイクロメートルの微細な気泡(マイクロバブル)を含む水を地盤に注入する液状化対策工法の開発に成功しています。現在、薬剤を注入して強度を高める地盤改良工法と、このマイクロバブル水工法をミックスして、より費用対効果の高い新たな工法を確立しようとしています。「この研究は、本学総合研究所の重点研究に採択されました」と末政教授。地盤の強さを測り、液状化などから建造物を守るため、日夜研究に勤しむ末政先生は、まさに「緑の下の力持ち」といえるでしょう。

工学部 都市工学科
教授 末政 直晃



SDS試験機用機。ロッドがめり込んでいく際の力を計測し、地盤の良し悪しを見分けます。

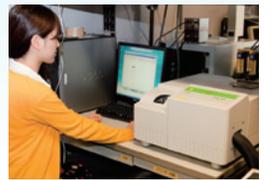


Profile
1985年東京工業大学工学部土木工学科卒業。1987年同大学大学院修士課程修了。1988年同大学工学部土木工学科助手。1993年武蔵工業大学工学部土木工学科(現・東京都市大学工学部都市工学科)助手。1994年同大学講師。1999年同大学助教授を経て、2008年より現職。博士(工学)。専門は地盤工学。

熱分析でソフトマテリアルの可能性を探る

「ソフトマテリアルとは、すごく簡単に言えば、金属や無機物など硬いもの以外の、有機物や高分子材料などやわらかいものこと。ゴムや、食品、人間の体もソフトマテリアルです」と説明する飯島正徳教授は、「熱分析・熱測定」によって、さまざまなソフトマテリアルの研究を続け、その結果をもつくり生かそうとしています。たとえば建物などに用いられる免震ゴムには60年程度の耐久性が必要とされますが、60年間にわたって経過観察してから使用するわけにはいきません。そこで、このゴムに熱を加えて劣化挙動を分析することで、どの程度の耐久性があるのか予測するのだといいます。飯島先生が主として用いているのは、示差走査熱量測定(DSC)と呼ばれる装置。これですべてさまざまなソフトマテリアルの試料に熱を加え、どのように振る舞うのかを解析します。「チョコレートなどの食品をターゲットに、食感や味覚の不思議にもアプローチしています」と飯島先生。ほかにも、燃料電池の電解質膜を解析し、発電効率を高める方法などを探求。「21世紀はソフトマテリアルの時代」と言う飯島先生。その研究成果に大きな期待が寄せられています。

知識工学部 自然科学科
教授 飯島 正徳



実験室に置かれた示差走査熱量測定装置。



Profile
1991年東京理科大学大学院物理学専攻修士課程修了後、三菱樹脂(株)入社。1996年から東京理科大学物理学専攻助手。同講師を経て、2001年より武蔵工業大学(現・東京都市大学)助教授、准教授を経て現職に。その間、1998年からFreiburg大学(ドイツ)に約2年間留学。日本熱測定学会企画幹事、編集委員も務める。

世界と協働しながら “快適性”の本質に肉迫する

ネパールの山岳地帯で生まれ育ったリジャル准教授が、機能的な近代建築を学ぶため日本の土を踏んだのは1992年のこと。その後、古都京都で暮らすうちに、冷暖房に依存した新しい建築物と違って、その国の気候風土になじんだ伝統建築が、実は環境にやさしい建物であることに気がついたのだと言います。リジャル先生は、ネパールの伝統住宅における夏冬の温熱環境を実測したり、ふるさとの山岳地帯で二酸化炭素などを計測するなど、伝統住宅と環境の相関を科学的に検証。加えて、最近とくに力を入れているのは、「快適性に関する研究」です。夏場は28℃、冬場は20℃と推奨される冷暖房の温度設定が妥当であるのか、関東と岐阜の住宅で現場調査し、居住者が感じる快適温度を明らかにしています。こうした研究活動を、学生とともに実施するのがリジャル先生の特徴で、ネパールのフィールド調査はもちろん、熱意のある学生は海外で開かれる国際学会にも連れて行くのだと言います。「早い時期に世界と接することで、国際性が磨かれ、研究のモチベーションも高まります」。研究と教育はクルマの両輪、先生の研究活動が学生の国際性の醸成にも大きく貢献しています。

環境学部 環境創生学科
准教授 リジャル ホムパバカル



2012年にイギリスで開催された環境関連の国際学会に学生2名を同行。右から2番目は同じ学部の宿谷教授。



Profile
ネパールのTribhuvan大学を卒業後に来日。2004年京都大学大学院で博士(工学)を取得。オックスフォード・ブルックス大学研究員、東京大学特任研究員を経て、2010年4月東京都市大学講師に。2012年4月より現職。ネパールでのフィールド調査や、世界各国で開催される国際学会に学生を同行させ、国際的な視野とスキルを獲得を支援。

膨大な映像データの中から ユーザーの好みに応じてコンテンツを推薦

八木伸行教授は、前任のNHK勤務時代、映像メディア技術の研究開発に加え、BSデジタル放送や、埼玉県川口市にあるNHKアーカイブスの立ち上げにも関わった映像コンテンツのスペシャリスト。「現在、無料で観られるテレビ番組だけでも20チャンネルほど(東京地区)。あまりに大量なため、どこかに自分が見たい映像があっても、残念なことにはそれ気づくことが困難です」と語る八木先生は、「一人ひとりの興味や関心に応じて、映像コンテンツを自動的に推薦・提示できるシステムの研究をスタートさせました」。コンテンツ側の研究に加えて、視聴する側の嗜好や興味、関心を把握する研究もスタートさせたところ。映像を観ているときの、顔の向きや視線、表情、動作などを解析することで、「あなたが今、どれくらい本気でその番組を観ているか、チェックすることができます。こうしたデータを蓄積して、その人の嗜好を推定し、それに合わせた映像コンテンツの推薦を可能にできるのではないかと考えています」。モニターの前に座っただけで、何もなくても自分の観たい映像が現れる。そんな夢のような視聴環境が、八木先生の研究室から生まれるかもしれません。

メディア情報学部 情報システム科
教授 八木 伸行



視聴者が「どの程度本気で番組を観ているか」チェックするための実験機材。



Profile
1980年京都大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。同年NHK(日本放送協会)入局。甲府放送局、技術局、編成局、放送技術研究所等で勤務。この間に京都大学より博士(工学)を取得。2005年から2008年にかけて、東京工業大学特任教授(兼任)。2012年4月、東京都市大学環境情報学部(現メディア情報学部)教授に就任。映像メディア技術に関する著書も多数。

良質な住宅ストックの形成に向けて

東京大学生産技術研究所を経て、2013年、母校都市大の准教授に着任した信太洋行先生。環境にやさしい都市生活のあり方を提案し続ける先生が追求するのは、「快適で持続可能な都市生活を実現するためのモノやサービス」。その一つは、3Dレーザースキャナーを活用した研究があります。3Dレーザースキャナーは、数ミリから数センチ間隔でレーザ光を照射し、その物体の形態を点の集合体として立体モデル化するもの。信太先生は、これを一戸建や集合住宅の建築現場に持ち込んで、基礎から軸組、内部配管などの建築画像を取得。設計図面からうかがい知れないリアルな建築情報を、施工時のチェックや、将来、中古住宅として販売する際の評価材料に役立てようとしています。他にも信太先生は循環型インフィル(内装・設備)の実現に向けた小型H形鋼の開発に注力。これが実現すれば、住宅の内装や家具はもちろん、ある一定の規模であれば構造材としての役割も期待できるということです。ハード・ソフト両面で住宅のサステナビリティを追求する先生は「一日も早い実用化を成し遂げたい」と力強く語りました。

都市生活学部 都市生活学科
准教授 信太 洋行



3Dレーザースキャナーで3Dモデル化した建築中の一軒家。



Profile
1994年武蔵工業大学(現・東京都市大学)工学部建築学科卒業。1996年同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。同年新日軽株式会社(現・LIXIL)入社。2002年東京大学生産技術研究所野城研究室学術連携研究員に就任。2008年博士(工学)。同特任研究員・特任助教。助教を経て、2013年東京都市大学都市生活学部准教授に。被装木を利用した家具で2008年度のグッドデザイン賞を受賞。

子どもに内在する“主体性”を 引き出す保育を実現する

人は皆「自分で自分を育てる力」をもって生まれてきます。と、語る根津明子准教授は、「乳幼児期における教育では、子ども自身に内在する力を十分に発揮できる環境を整えることが重要」と強調します。人、モノ、自然、空間などの環境のうち、もっとも重要なのが「人」。「人は皆生まれて間もないときから他者の存在を感じとり、他者をモデルとし、他者と関わりながら生きていきます。乳幼児教育を学ぶうえで大切なのは、そんな子どもの姿を具体的に理解すること」と言う根津先生は、フィールドワークで記録した乳幼児の写真や映像から一人ひとりの子どもの行動パターンや、子ども同士が互いに関わりあう姿を分析しているそう。保育者は一人ひとりの乳幼児に特有の嗜好や関心を理解し、乳幼児を理解し支援するための観察力と洞察力、そしてよい保育を行う実行力が求められます。保育者をはじめ、周りの大人からしっかりと理解され、適切に関わってもらいつつ育った子どもは、大人になったとき、自ら人生を切り開いて生きる強さを発揮するはずとのこと。好奇心全開で、興味を持った物事にまっすぐ向かっていく子どもの姿を観察するたびに、人にはみずから成長し、強く生き抜く力が備わっていることを実感すること、そして、その力を理解し、尊重することが保育の原点だという。

人間科学部 児童学科
准教授 根津 明子



幼稚園児が作った食べ物のおもちゃ子どもは大人の世界を模倣することが多い。



Profile
1979年東京学芸大学大学院幼稚園科修士課程修了。乳幼児のための環境づくり、遊具、おもちゃの輸入・販売等に携わる。その間子どものおもちゃ、おもちゃ博物館などの研究をし、1999年より保育者養成にかかわる。2004年より東京理科大学短期大学講師。准教授を経て現職に。現在は保育現場のフィールドワークを通して乳幼児期の「共同主体性」の生成について研究している。

TOPICS

1 東京大学との 学術連携シンポジウムを開催

2013年7月30日、都市大世田谷キャンパスにて、東京都市大学・東京大学生産技術研究所第2回学術連携シンポジウムが開催されました。都市大と東大生産技術研究所は、互いの特質を生かしつつ、若手人材育成や研究協力を目的とした学術連携を行っており、シンポジウムはその一環として実施。堀田正生都市大教授・生産技術研究所客員教授による「β変換に基づくAD変換器の実用化研究」をテーマとした講演に続き、両大学が行う9つの共同研究について、各研究代表者が進捗状況を報告しました。



隣接会場ではポスターセッションも行われました。

2 都市大方式ハイブリッド芝の 研究成果が報告されました

都市大では、2011年6月から、人工面の再緑地化技術やアスファルトに人工芝を貼って新たな植栽基盤を形成する「ハイブリッド芝」の研究を進めています。これまでに天然芝と人工芝のハイブリッド型緑地の実証実験、野草生育試験など、さまざまな研究や実験が行われましたが、この度、「東京都市大学方式 人工面の再緑地化技術 研究成果報告書(中間報告)」にまとめて、その意義や概要を広く公開しました。今後も都市大では環境配慮型の緑地造成手法や生物多様性を維持するための研究に取り組みます。



発行された研究成果の中間報告書。

3 楽しくディスカッションできる 『渋谷カフェ』を渋谷サテライトクラスで開催

都市大では、今話題の「?」や「!」をテーマに、参加者が気軽にディスカッションを楽しみながら、広く社会とつながることのできる場として「渋谷カフェ」と題した集いの第1回を2014年2月18日、都市大の渋谷サテライトクラスで実施(共催:日本サイエンスコミュニケーション協会)。その後、都市大前学長の中村英夫氏や、ノルウェー・トロンハイム科学技術大学名誉教授でノルウェー王立科学協会前会長のクリスチャン・フォスハイム氏を講師に招いて、第2回、第3回の「渋谷カフェ」を開催しています。



楽しくディスカッションできるようお菓子和コーヒーを用意。(参加費500円)

グループのメリットを生かしながら 独自の進化を遂げる都市大付属各校

高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園の都市大付属各校は、それぞれが培ってきた伝統とノウハウを生かしながら、グループとしてのメリットを活用し、今なおたゆまぬ進化を遂げています。都市大グループの祖、五島慶太先生の教育理念を体現する付属各校の“今”をご紹介します。



「明るく元気な進学校」をモットーに 躍進を続ける中高完全一貫校

2007年度より完全中高一貫教育に移行した都市大付属中学校・高等学校。「明るく元気な進学校」をモットーにさらなるレベルアップに取り組んでいます。2014年度の中学入試総志願者数は5246名と、4年連続で都内私立中学志願者数トップを達成しており、そのうちグローバル化の一環として新たに導入された帰国生入試の志願者数は146名となっています。卒業生の合格状況では、過去最高となった昨春卒業の一貫1期生の大学合格実績を大きく更新し、東大2[1]、一橋3[1]、東工大5[2]の最難関国立大をはじめ、早稲田70[40]、慶應30[26]、上智35[18]の難関私立大にも多くの合格者を輩出しています。(2014年3月17日現在の速報値。[]は昨年的人数)。同校では、2013年度の入試から、最難関国立大を目標とする「Ⅱ類」と、難関国立私立大を目指す「Ⅰ類」の2コースを設けており、今後このコースの進学動向にも注目が集まりそうです。また、自動車部が、2013年10月に行われた『本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ2013 第33回全国大会』の中学生クラスで初優勝を飾るなど、課外活動でも優れた実績を残しています。



自作車両の燃費性能を競う「Honda エコマイレージチャレンジ2013」中学生クラスで見事優勝。



豊富な国際体験、語学教育を用意し グローバルリーダーの育成を進める

2010年度から共学部をスタートした都市大等々力中学校・高等学校。2014年度の中学入試総志願者数は2567名。国際社会を牽引するグローバルリーダー育成を目指す同校では、新たに帰国生入試を導入。また、2014年度は共学部高校2年生全員が修学旅行で英国オックスフォード大学での寄宿生活と授業を体験するほか、中学生希望者による英国の名門パブリックスクール「ラグビー校」での英語研修、高校生希望者による米国ハーバード大学などでのワークショップを盛り込んだ語学研修を実施する予定です。課外活動も盛んで、全国大会の常連として知られる舞チア部は、2014年1月11日、春高バレーの準決勝に進んだ同じ都市大グループの塩尻高女子バレー部の応援に駆けつけ、センターコートで洗練されたパフォーマンスを繰り広げました。その他、教育機関としていち早くカーボン・オフセット認証を取得するなど、先駆的な環境教育にも定評があり、2013年にはカーボン・オフセット推進ネットワークが主催する「カーボン・オフセット大賞」奨励賞を受賞。その教育理念である「ノブレス・オブリージュ(高潔な若人が果たすべき責任と義務)」を着実に現実のものにしています。



ラグビー発祥の地The Closeで、ゴールと学校チャペルをバックに記念撮影。



文武両道を体現しながら、 さらなる進化を遂げる

2013年8月、学習支援センターなどを擁する新校舎建設に着手(2014年8月竣工予定)し、併せて、難関大学進学を見据えた特別選抜類型を設置するとともに、文理進学類型にはものづくり人材を育成するサイエンステクノロジーコースを設けるなど、大規模な教育改革にも乗り出した都市大塩尻高等学校。ハード・ソフト両面のたゆまぬ進化により、信州大など国立大や、早稲田大など有名私立大に合格者を輩出しています。文武両道のお手本ともいえる同校は、2011年度に全国高等学校野球選手権大会(夏の甲子園)に駒を進めた野球部や、2002年から7年連続で全国選抜大会を戦ってきた空手道部など、課外活動も盛ん。他に2009年、2012年と全国高等学校サッカー選手権大会に出場したサッカー部が、2013年度も長野県大会準優勝の好成績を収めています。2012年から3年連続で日本バレーボール高等学校選手権(春高バレー)全国大会に出場した女子バレーボール部は、「粘りのバレー」で強豪を撃破し、創部5年目にして、全国第3位という快挙を成し遂げました。文に秀でた才を発揮し、武で圧倒的な存在感を示す同校。2014年度入学総志願者数は、対前年度比125%と着実に飛躍を遂げています。



8月竣工予定の新校舎は既存の校舎と渡り廊下でつなげ、中庭を中心とした回遊型校舎となります。



有名シェフが直接給食。保護者の満足度はほぼ100%です。

児童の学力と情操を高め「日本一楽しく中学受験できる学校」を掲げる

都市大グループとなってから年々志願者数が増え続ける都市大付属小学校。高い学力と豊かな心の定着を教育の2本柱に据え、脳トレ理論に基づいた速読を採り入れたり、いち早く電子黒板を採用するなど、教育面での工夫に余念がありません。身体全体で楽しみながら学ぶことを重視する同校では、60もの体験授業を用意。中でも、日本を代表するフランス料理シェフ、三國清三氏が直接指導する食育プログラム「ミクニレクソン」はユニーク。食文化や「五味」など食に関するさまざまな知識を学びながら、野菜作りや調理に挑戦します。体育や芸術にも力を入れており、運動会での高学年による組み立て体操とカラーガードは毎年保護者の喝采を浴びています。「音楽発表会」も重要な行事。2013年度は、府中の森芸術劇場において、学年ごとに見事な合唱や演奏を披露し、最後には会場と一体となってミュージカル「人間になりたかった猫」の「すてきな友達」を歌いました。都市大グループ校の他、私立・公立の有名中学校に進む児童も多数おり、小学校人気ランキングは都内トップクラスです。目指しているのは「日本一楽しく中学受験できる学校」です。



等々力中高の先生と生徒が園児にサイエンスのおもしろさを伝授します。

多文化と触れあい、科学のおもしろさを知る

日常のあそびや体験を通して、かしくく・たくましく・りりしく育てる保育を推進する都市大二子幼稚園。多摩川河川敷にほど近い自然に恵まれた好立地と、広い園庭など充実した施設・設備を活用するほか、都市大人間科学部児童学科の学生サポーターが保育の支援をする等、恵まれた教育環境です。2013年からは、「多文化に触れる教育」を実践。年少組は「多文化に興味を持つ」、年中組は「いろいろな国があることや、その国の文化に関心を持つ」、年長組は「いろいろな国の文化や言葉の違いに気づく」ことを目標に、絵本や歌、地図や地球儀を通し、興味関心を喚起しています。また、小さい頃からサイエンスに触れさせるため、都市大等々力中学校・高等学校と連携した「科学体験教室」を開催。教員と理科部生徒を講師に迎え、「ペットボトルの空気砲」など実験や学習を行いました。『先生ブログ』によって、園長と副園長が毎日子どもたちの様子を情報発信。安心と信頼の幼児教育に努めています。



あなたのスマートフォンに、東京都市大学グループのアイコンを! ～スマートフォンアプリが完成、無料配布中～

都市大グループでは、皆様とのインターネット上でのコミュニケーションを促進するために、各種公式ソーシャルメディア(Facebook、Twitter、YouTube)を開設してきましたが、このたび新たな展開として、スマートフォン用アプリケーション(iPhone版およびAndroid版)「東京都市大学」が完成。現在、App StoreおよびGoogle Playを通じて、無料配布中です。

このアプリでは、グループ概要や学園歌、大学から幼稚園までの各学校の基本情報や写真、新着ニュースなどを紹介するとともに、ホームページやソーシャルメディアへのアクセスを容易にしました。ぜひこの機会にダウンロードしていただき、都市大グループをより身近なものにしませんか?

ダウンロード方法: iPhone版はApp Storeから、Android版はGoogle Playから、ダウンロード(無料)できます。
「東京都市大学」と検索し、「東京都市大学」のアイコンが表示されたら、アイコンをタップしてください。インストールが開始されます。



都市大グループ
最新情報を
配信中!

充実する都市大グループのソーシャルメディア

都市大グループの研究・教育、課外活動、イベント等の最新情報を各種ソーシャルメディアで発信しております。
[1月に行われた春高バレー2014(塩尻高女子バレーボール部)ではどこよりも早い結果速報を伝え、好評を得ました]

都市大グループ公式 Facebook
「いいね」でGOODコミュニケーション!
<http://www.facebook.com/TCUgroup>

都市大グループ公式 Twitter
「つぶやき」をフォローしよう!
<http://twitter.com/toshidaigroup>

動画で情報発信中!
都市大グループ公式 YouTube
<http://www.youtube.com/user/gotoikuei>

ブログで日々の出来事を伝えます!
都市大グループ公式 Blog
<http://www.goto-ikuei.ac.jp/blog/>